



# JEG ニュースレター 178号

www.jegschweiz.com

2021年2月15日

## 小さな証

スイスの難民キャンプから日本へ、そしてドバイでの起業へと数奇な運命を辿った筆者の証です。 P2

## ユティカ 2021

毎冬チューリッヒ湖畔で開催されるユースリトリート”ユティカ”は、オンラインで行われました。その感想文集が出来ました。P8-P9

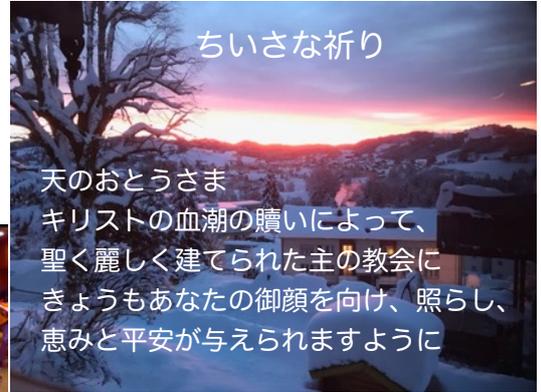
## 日出づる国から

欧州同様、コロナ禍にゆれる私たちの母国の信仰の友から、ことしも便りをいただきました。

P5-P7

## EC 20

米国版のキリスト者の集いとも呼べる17回目のカンファレンスが年末に開催されました。 P8



## ちいさな祈り

天のおとうさま

キリストの血潮の贖いによって、聖く麗しく建てられた主の教会に、きょうもあなたの御顔を向け、照らし、恵みと平安が与えられますように

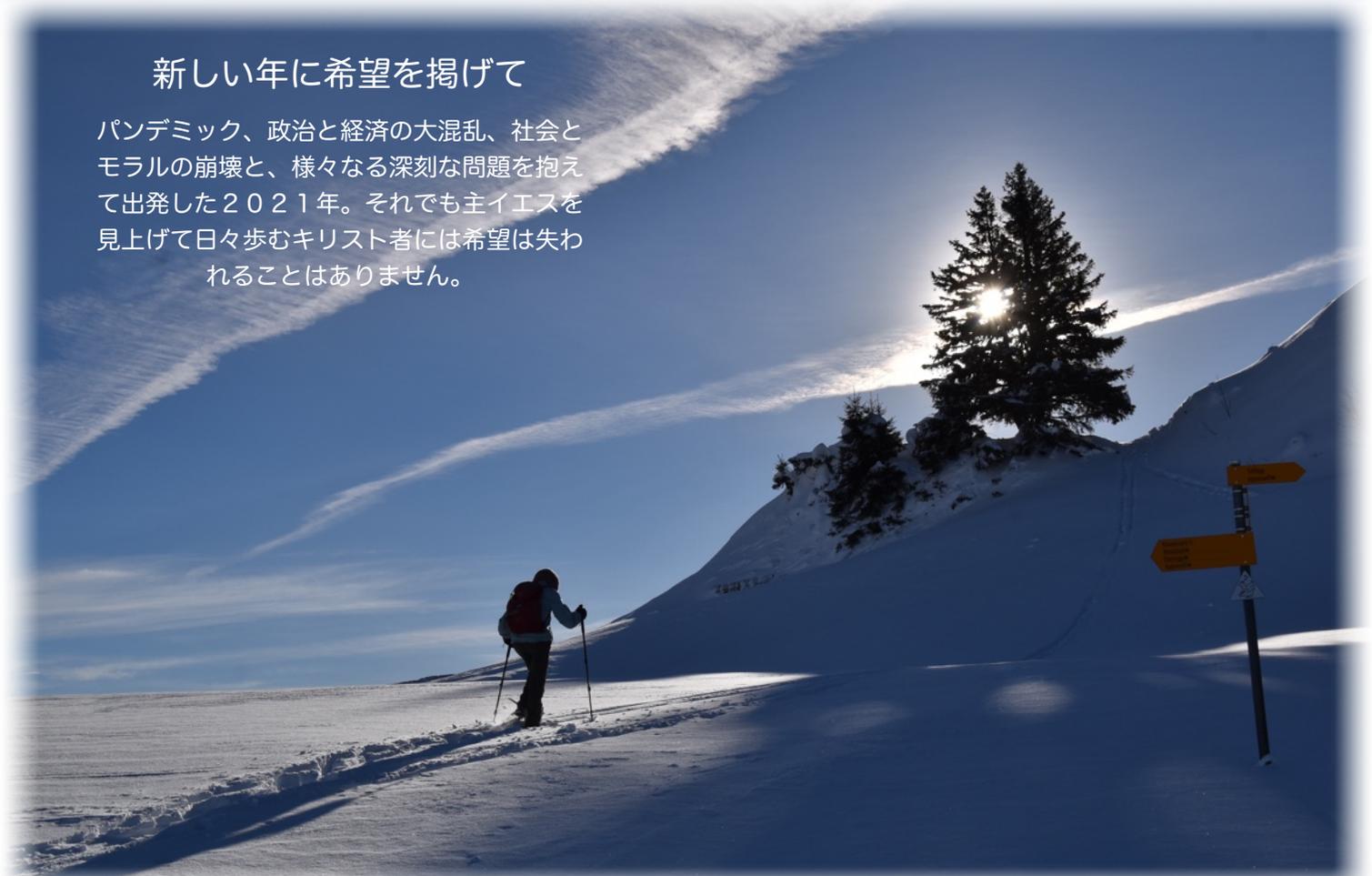
## スイスJEGの年間聖句

わたしの羊たちはわたしの声を聞き分けます。わたしもその羊たちを知っており、彼らはわたしについて来ます。

ヨハネの福音書 10章27節

## 新しい年に希望を掲げて

パンデミック、政治と経済の大混乱、社会とモラルの崩壊と、様々な深刻な問題を抱えて出発した2021年。それでも主イエスを見上げて日々歩むキリスト者には希望は失われることはありません。



## ちいさな証

## 神様の不思議な日々

オヤル千夏(ちか)

アラブ首長国連邦 ドバイ在住



1年前には、まさかこちらで小さな証をさせて頂く事になるうとは全く想像もしていませんでした。イエス様に、JEGの皆様に出会えた事と全てにハレルヤと心から感謝を申し上げます。

私は、収容されていたkreuzlingenの難民キャンプからスイス人の友人に連れられ2020年の2月にスイスJEGへ導かれました。その日は特別集会で、ロンドンJCFの服部牧師が「天の神の大きな喜び」をテーマにルカ15章の「放蕩息子」の有名な箇所から解き明かしをされました。服部牧師は今回、二人の息子を持つ

た父親にスポットを当てられ、パリサイ人になぞらえた長男に深い同情を示され、私達の父である神の深い愛と赦しを改めて学ぶ幸いな時となりました。

その後の愛餐会では久しぶりに日本料理を楽しみました。そこである姉妹に「トルコ人と結婚したことは良かったかどうか」と言われ、私はショックで大泣きをしたのでした。その後、別の姉妹がメールを交換してくれ、再び私に会いに来てくれ「シューミン先生の癒しと解放の祈り」を体験できました。

その時心の奥に、しまいこんでいた辛い過去を探ってみると私には怒りや妬み憎しみが潜んでおり、あろうことか自分を呪っていたことに気付いたのです。これらの思いを放棄し、自分を傷付けた人々を赦し祝福し、イエス様にお渡ししていくという長い時間を必要とする作業でした。それを姉妹は忍耐強くお付き合い下さり、私の霊は以前とは違った静けさを経験したのです。この癒しと解放の祈りをこのタイミングで行えたことは本当に感謝でした。でなければ私は滅んでいたことでしょう。

母親が放った言葉によってその息子さんが鬱になり、何十年も薬を飲んでいたのに癒しの祈りで霊が解放され、今や癒しの祈りを行う者とされ活躍していることを耳にしました。そうやって私も気づかない内に、呪いの言葉達を今回だけでなく昔から受けていたことを知りました。

私の夫は身請け引き受け人の妻である私の不在により、既にトルコに強制送還になっており、東京に帰る家も無い状態で、私はスイス政府から強制送還の知らせを受けました。しかし難民支援団体も、友人も、教会の姉妹達も、トルコへ行くことに反対しました。そんな中トルコでは徴兵制度も無くなり、無事に夫は9年振りに家族との再会を果たせた事を夫から知らされました。その言葉に私は安心した反面、私の役目は終わったと空虚感が心を満たしました。

そして、これからこの呪われた結婚をどう終わらせるか、一人で生きていくことの決断を迫られたものの、答えることが出来ませんでした。将来のイメージが全く掴めず、私は自分に失望し、本当に疲れ果ててしまい、自死の思いが入ってきていました。そんな状態の中、飛行機はスイスを出発し、3月の日本はコロナ騒ぎで、教会だけでなく、多分きつと何処でも、外国から戻った人には厳しかったと思います。私の友人達との再会を喜んだのも束の間、私の不在中に夫が日本に残して行った様々な問題を解決し、責任を果たすよう言い渡された私は、過呼吸になり倒れてしまいました。

もう恐ろしくて一歩も歩くことが出来ない私にイエス様の十字架のシーンが表れ、私は何度も謝り涙で顔が腫れあがりました。そして私の噂を聞いた宣教師のHさんが訪ねて来られ、聖書の学びが始まりました。Hさんはイザヤ書52-53章から受け取られたメッセージを私に分かち合ってくださいました。

「私はあなたのただ中にいる主、私だけを見上げなさい。私があなたに語る真実、真理の言葉を目印としてたたく立って前進しなさい。私だけがあなたを愛し、あなたのために命をかけてゆくからだ。私が喜び十字架刑で耐えたのは、私の命があなたにあり、私の命の喜びが、あなたの中に見えたからだ。私の命をあふれだし輝きなさい。私の命が、あなたから溢れ流れるのを見なさい。そうやって、あなたの隣人を愛しなさい。」



ドバイ：アトランティスバーム前

私は雷に打たれたようになり激しく泣きました。イエス様の、命の喜びが私の中に見えたとおっしゃって下さるそのメッセージに私の霊は目覚め、そうやって夫を愛しなさいと…。イエス様の夫への愛がわかったのです。

「神が私達に与えてくださったのは、恐れや不安ではなく力と愛と正気の霊です」(2テモテ1:7)

そして、はからずして、呪いを受けてしまった出来事を箱に入れ封印し、イエス様にお渡しし霊の解放を得ました。その後、夫は彼の母親にイスラム教を捨ててキリスト者になると言ったと告白され、腰が抜けるほど驚きました。トルコのロックダウンが解かれた後、夫との再会が叶いました。

振り返れば私は6歳の時にイエス様に会い、受洗したのは30歳の時でした。呑気な私の信仰をイエス様は奮い立たせて下さいました。現在、夫と二人の会社をドバイに立ち上げることが出来、神様の不思議な日々を経験しています。どうぞ夫の洗礼までの導きをお祈り下さるよう皆様をお願い致します。

Zoom礼拝、祈り会に参加でき皆さんに繋がれた幸いを心から感謝し、JEGの働きが益々祝福され、笑顔が溢れる教会でありますようお祈りします。



1、今年のユティカ21はオンラインで開催されました。



オンライン・ユティカ（ユース&ティーン）集会（2021年1月2日～3日）は無事に終了いたしました。皆様のお祈りに心から感謝いたします。

昨年の11月からコロナ感染者数は増えるばかり、そして、12月半ばにはスイスが事実上ロックダウンとなる発表を聞き、当初計画していた現地でのキャンプを諦め、全てのプログラムを急遽オンライン様に変更しました。

今年のオンラインユティカのテーマは「ライフストーリー」で、集会聖句はエレミヤ29：11でした。スイス日本語福音キリスト教会が主催していますがスイスJEGと関わりのあるユース、ティーンが各地（ドイツ、フランス、オーストリア、オーストラリア、日本）から45名ほど集まりました。

神様からいただいた若さ、またITの賜物をこの様な形で用いる機会を与えて下さった主に感謝しています。今回、この集会に参加された若者たちがいただいた主の愛と御心とを地域教会や社会、また日々の暮らしの中で主を証する者となります様に心よりお祈りしています。

今村葉子記

2、加藤琢美先生のご奉仕



旧年、スイスJEG主催のユースリトリート、婦人会のリード、説教と多くのご奉仕をされた加藤琢美宣教師（フィンランドOVMC）は、フィンランド・ラップランドを基地に、欧州各地でその働きを続けられています。ことしも、新年早々のオンライン・ユティカ、

1月24日のJEGの礼拝においてもみことばを解き明かされました。適用と実践に富むメッセージ”信じて、信じて、信じて、その通りになる”の録画（限定公開）をご覧になりたい方はスイスJEGへご連絡ください。

暖かい人柄と豊かな実践的聖書の知識に富む加藤琢美宣教師は、ことしも婦人会やユースの活動に深く関わっていただきます。

3、第28回 スイス日本語福音キリスト教会総会が開催

2月7日（日） 本年度の教会総会は、礼拝の始まる前の13時半から1時間、ZOOMによって開催されました。2020年度の活動／会計報告が承認されたあと、マイヤー牧師によって多くの奉仕者への感謝と労いのことばがあり、今年の牧師の計画が発表されました。

説教シリーズとして、使徒ヨハネに焦点をあて、新約聖書シリーズとして”ヨハネの手紙1-3”、および旧約からはネヘミヤを取り上げ、みことばの解き明かしをされる予定です。

今年の招待講師には、4月11日にHans Wüst元牧師、5月9日に内村伸之牧師（ミラノ賛美教会）、10月10日矢吹博牧師（フランクフルト日本語福音キリスト教会）らが予定されています。また、今年から役員（長老）による奨励もはじまる予定です。

スイスJEGの長老（役員と呼ばれる）には、マイヤー・マルチン牧師に加え、原憲二兄、今村泰典兄およびミューラー・トマス兄の留任が可決され、新たに役員会からの推薦でヴァイランド・アティラ兄が、役員として会員のほぼ全員によって承認されました。

教会運営の実務に関わる世話人会の人選ならびに役割分担は、のちに開催される合同会議で決定されます。本年度も多くの奉仕者の働きと会衆によって捧げられる礼拝に主の祝福がありますよう祈ります。



また、礼拝のない日曜日は、今年も引き続き”祈り会”がZOOMによって17時から持たれます。現在、参加者は十数名ですが、この祈り会（小グループで行われます。）への参加者がもっと与えられるよう祈っております。同時に、スイスJEGの礼拝のない日曜日は、欧州の他教会のオンライン礼拝に参加が勧められ、スイス

JEGからは、姉妹教会であるフランクフルト日本語福音キリスト教会、ミラノ賛美教会、シュトゥットガルトBWSにおける礼拝に参加者が与えられています。

コロナ禍を機に、オンラインによる世界各地で開かれる聖書の学び会（シンガポールJCFの聖書研究会にはスイスJEGから数名の参加者がいます。）などには、場所を問わず参加できることから、参加者も増え宣教に寄与しています。しかし、誰もが対面による礼拝や聖書の学びの再開を待ちわびているのも事実です。

4、第38回ヨーロッパ・キリスト者の集いの準備状況

7月29日から仏ストラスブールにおいて開催予定の第38回ヨーロッパ・キリスト者の集いの準備をすすめる実行委員会は2月13日に9回目のミーティングを持ちます。開催時期の感染状況が予測できないため、ネットによる開催も視野に計画を進めています。参加申し込み書は2月中に発送の予定ですが、さまざまな質問が寄せられることを想定して、集いのHPのストラスブール特設サイトにQ&Mコーナーを設けました。

集いに関する最新情報は、HPに随時アップロードされますので時折ご訪問ください。

5、世界各地からホットな情報が満載の月報／ニュースレター&メルマガが届いています！

工藤篤子メルマガ、井野葉由美メルマガ、吉村美穂NL、バルセロナ日本語で聖書を読む会月報、デュッセルドルフ日本語キリスト教会月報、ケルン・ボン日本語キリスト教会月報、ルーマニア川井勝太郎宣教師の週報、イザール通信、森ゆり空レタ配達人、”宣教の声”が届いています。お読みにになりたい方は、松林までご連絡ください。なお、スイスJEG会員の兄姉は、HPでパスワードを入れ、いつでも閲覧可能です。

# ヨーロッパから



## 荒野に道を

### 馬場ファミリー

信裕、晶子、恵、重信、英之、愛実  
ロンドンJCF



ロンドンJCFはコロナ禍の中で牧師不在という最悪の状況に置かれていたが、この一年を振り返る時確実に主の御手が置かれていることを知り、「荒野に道を、荒地に川」を設けてくださる主の御名を褒め称えます。

主はインターネットを通して自宅にいながらオンラインによる礼拝、交わり、学びを可能としてくださいました。そんな中で一日も早くロンドンJCFの礼拝を持ちたいという思いが教会内から湧き上がり、2020年短期でご奉仕予定だったイマヌエル和歌山キリスト教会の朝比奈先生がオンラインによる礼拝説教を快く引き受けてくださいました！8月初めのオンライン礼拝を試みる事ができ、その後11月か

ら 月 2  
回、12  
月 3 回、  
そして、  
今年一月  
から何と  
毎週礼拝  
が捧げられるようになりました！



毎回礼拝には英国だけでなく、帰国者を含め日本からも多くの方が集まって来られます。家庭集會も10月から参加者の自発的な声から再開し、今年度からJCFの聖書の学びの場に発展します。熱心に主を求め、もっと知りたい、福音を伝えたいという積極的な思いを持ってみなさ

ん参加されています。有志による個人伝道の学びも定期的に日本からリモートで始められています。

奇跡はまだ続きます。神様は全てのことを可能にするため新潟から吉澤先生を送ってくださいました！吉澤先生は服部牧師の後任候補として紹介された方でした。しかし、コロナ禍の中招聘の話は中断していますが、先生は招聘に関係なくこのJCFの状況をご覧になり、JCFが教会としてあるために毎週の礼拝を再開することを第一に提案してくださいました。

そして、現在仕えておられる教会との兼牧という形で協力牧師としてお手伝いを申し出てくださいました。日英の時差があるから、インターネットがあるから可能となった教会形態です。それだけでなく、英国時間日中に持っている各種の集會も助けてくださることになりました。礼拝をはじめ集會も、学びも全て教会・地域という枠を超え、まさにユニバーサルチャーチとして神の家族が集まる場所として用いられ、主の栄光が現されています。



馬場ファミリー

コロナが一日も早く収束することはわたしたちの大きな願いですが、それ以上にコロナ禍の背後におられる主の御心を求めつつ、一人でも多くの方々が主の御前に悔い改め、神の子とされることを願い、祈っています。

大正時代に始まったロンドンクリスチャンの集まりが、2024年には100周年を迎えます。この福音の光を絶やすことなく次世代に繋げ、ここロンドンから福音が全世界に感染拡大していくことを願っています。

『神を愛する人たち、すなわち、神のご計画にしたがって召された人たちのためには、すべてのことが共に働いて益となることを、私たちは知っています。』  
ローマ8：28

## 神の御力と霊によって

### 矢部ファミリー

晶宏、幸恵、理央、理歩名  
オーストリア：OM宣教師



<https://www.yyministry.com>

私たち家族は、昨年末にオーストリアに到着しました。コロナ禍の中、無事に出国・入国できるか気を揉みましたが（同日羽田発の他多くの便が欠航）、主の御手を感じながら、多くの人の祈りに支えられて、12月30日ヨーロッパ入りできました。

欧州での宣教の召しが初めて与えられたのは2005年。その時もし「実際に宣教に出るのは15年後」と知っていたら、途中で放棄していたかもしれません。そしてこの15年間、多くの試練がありました。「神さまに嫌われてるのかな？」と疑ったこともあります。（今振り返れば、愛の訓練だったのです。）

2018年にバーンアウトしてしまい、普通の生活もできなくなった僕。主は私たち家族を、休息と宣教師訓練のため、ニュージーランドへ半年置かれました。ニュージーランドはオーストリアから地球の真反対、地理的に一番遠いところにあります。その時受けた御言葉は、ゼカリヤ4章6節「・・・権力によらず、能力によらず、わたしの霊によって・・・」。

こう思いました。「ヨーロッパでの宣教のため今まで力の限り頑張ってきたけど、身も心もボロボロになり、オーストリアから一番遠いところに来てしまった。もしいつか本当にヨーロッパへ行けるなら、それは自分たちの知恵や努力によってではない。ただただ神の御力と霊によってだ」と。

試練の度に、主は恵みをもって臨んでくださり、奇跡をもって道を開いてくださいました。イエスさまがオーストリアの地でどのような御業を見せてくださるのかワクワクしています。日々主を礼拝し、主の素晴らしさを証ししていきたいと思えます。コロナが終息したら、スイスJEGにぜひ伺いたいと思っています。その日を楽しみにしつつ、皆さまを覚えてお祈りしています。





北海道・十勝平野の巨大かぼちゃ

日出づる国から

## 蒔かれたその種

### フーサー・ファミリー

フーサー・シモン、香織、ティモ、ヨエル

OMF宣教師



OMFの宣教師としてスイスから日本に遣わされて5年、その間十勝に越して来てから早3年が経ちます。日本に来た際には夫婦2人でしたが、今は2人の息子たちも与えられ、大変な日々ですが神様の守りと恵みを感じさせられる日々を過ごしています。そして今、十勝での働きも佳境を迎え、私たちは3月末に活動報告のため約1年間スイスへと戻ります。

去年はコロナ禍で教会活動はほぼ全てがオンライン、または中止となりました。3月に新たな命が誕生し、育児に集中できたことは本当に感謝でしたが、十勝に来てから始めたミニストリーがだんだんと軌道に乗ってきたところで中止せざるを得ない状況に、私たちが今この地に遣わされている意味を考えさせられました。

本来ならば「ミニストリーがより根付いてから引き渡したかったのに…」といった思いがよぎりました。しかしそんな中でもこの世界を支配する神様は確かに働かれています。今までの活動を通して知り合った方がキリスト教に興味を持ち共に学びをしたり、少人数で集まるからこそ深い有意義な時が持てたり…。チャレンジな中であってもそこに恵みを

用意して下さっている神様の偉大さに思いを馳せました。

「私が植えて、アポロが水を注ぎました。しかし、成長させたのは神です。」とあるように、成長させてくださるのは神様です。私たちは収穫を見ずにこの十勝の地を去りますが、蒔かれた種が芽を出し、やがて良い実を結ぶことを神様に期待します。そして春にスイスで皆様に再会できる日を今から心待ちにしています。

## 祈りとみ言葉に専念

高木 攻一、輝

泉佐野福音キリスト教会牧師



欧州そしてスイスの皆様、主にあってご挨拶申し上げます。ウーン在の折に幾度もお訪ねしたスイス教会の皆様が懐かしく思い起こされます。

コロナ感染者が1億を超えパンデミックが危惧されますが、皆様にはお変わりありませんか。10年のウーン宣教を終え、2015年に帰国した私は現在、後期高齢者扱いで、免許証も特別検定をパスしなければなりません。

幸か不幸か復職した教団には定年制が無いため、未だ現役で牧師職にありま

す。ウーンを去るにあたり、黙示録3章8節の「見よ。私はあなたの前に門を開けておいた。」の聖句を頂き、結果として大阪府郊外の泉佐野福音教会に奉職させていただいております。

独身の婦人伝道者により開拓され55年が経過、私たちはその四代目です。四名の役員をはじめ、信徒の皆様が献身的にご奉仕されますので、私たちは専ら祈りとみ言葉に専念する日々で、気候がとも温暖で安定し、人生後半に差し掛かる私たちに、主は最適の生活と奉仕の場をご用意くださりました。



5年前に奉職してから、ほぼ平均して二名の受洗者が

起こされ、今年も二名の婦人が洗礼クラスの受講を開始されたところ。主が教会に救われる魂を加えてくださることは、何処にあっても喜ばしいことです。3年程前に、小学生の女の子が突然「水を下さい」と教会の門を叩き、妻が対応したことがきっかけで「Kid's YY」という子供会が自然発生的に始まり、昨年のクリスマスには50名を超える子供達が押し掛けて来ました。

72歳になろうとする妻には嬉しい悲鳴で、今現在は別な方に対応してもらっています。5年前の赴任時には奏楽者がおらず、急遽、妻に礼拝会と祈祷会の奏楽奉仕が降りかかり、潰れるのではないかと心配もしました。今は若手二人が起こされ安心です。妻は請われて合唱クラスも担当し、ハンドベル賛美をクリスマス礼拝で演奏する機会もありました。果たして何処までできるやら奮闘中です。覚えてお祈りください。

# 日出づる国から



瀬戸内海；香川県

## 共に主を見上げて

### 津田ファミリー

津田和明、美奈、愛萌留（あもる）  
東京聖書学院2年在学中



スイス、またヨーロッパの愛する兄弟姉妹のみなさま、あけましておめでとうございます。

昨年は私たち家族のために祈り心を持って支え励ましてくださって本当にありがとうございました。

娘の出産で始まった2020年は、その後間もなくコロナ禍に突入し、生活スタイル、学びのスタイルの変化に戸惑いつつも、家族の健康、神学校での学び、教会での奉仕も守られて感謝でした。年末年始はひさしぶりに感染症対策に気をつけつつ、家族で淡路島の実家に帰り、娘の1歳のお祝いを親子三代で楽しむ時間が与えられました。

両親も初孫の愛萌留（あもる 1才1ヶ月）をととても喜んでくれました。妻は日本と韓国とのハーフで日本人の父を早くに亡くしていたので、初めての日本式の正月を新鮮さを持って楽しむことができましたように。

私たち家族は早めに現在東京に戻り、オンラインでの学び

を再開しておりますが、ふたたび緊急事態宣言が発令されて、それぞれ地方に里帰りしていた級友達は帰ってくることもままならず、それぞれ実家からの神学校生活を余儀なくされております。

1日も早く共に主にある豊かな交わりの中で、学びを再開できるよう、また学びと健康が守られるようお祈りいただくと感謝です。ヨーロッパもまだまだ深刻な状態だと聞いております。皆様の健康、心、霊性が守られるよう心からお祈りいたします。こういう時こそ、御言葉に養われて、共に主を見上げて祈り合い、主を愛し、また主の愛を持って互いに熱心に愛し合っていくことが何より大切だと感じております。

今年も場所は離れておりますが、主の愛のうちにある神の家族として、共に神様の素晴らしさを証していけたらと思います。

## 2021年は天が開かれる年に ローゼンクランツ・ファミリー クリスチャン、直美、志音、安奈 ジーザスコール東京

いつも尊いお祈りを心から感謝します。振り返ると昨年は教会においてもコ



ロナによる想定外の状況によって、物理的また霊的な葛藤、奮闘多々ありました

が、にも関わらず神の増し加えられる恵みを感じるこののできる1年でした。



年末年始は、昨年集まることもままならなかった東京、福岡、宮崎の教会のリーダー達で集まり、主を礼拝し、新しいビジョンをもってスタートすることのできる恵みに与かりました。

主ご自身がこ

のような状況でも教会をここまで守り導いてくださったことを感謝すると同時に、兄弟達で共に集まり励



まし合うことの慰めと力を今までにないほど味わう時でもありました。今年のテーマは、"Heaven Opener-天を開く人"です。今のような時代にあっても状況や環境によらず、キリストを持つ者として、家庭、職場、学校、どこでも天を開くことができる者でありたいと願います。

暗闇に輝く奇跡の希望、イエス・キリストを今年も一人でも多くの方が見出しますように！皆様の祝福を心からお祈りいたします。



# 日出づる国から



私の主、私の神は、私の力

高橋みどり

西荻チャペル



孫たちと

“しかし、私は主にあって喜び躍り、わが救いの神にあって楽しもう。  
私の主、神は、私の力。私の足を雌鹿のようにし、私に高い所を歩ませる。”  
ハバクク3：18, 19

主の聖名を賛美いたします。  
2021年も既に一か月が過ぎてしまいました。皆様いかがお過ごしでしょうか？

主人が病の中にあった時は、多くの方々の祈りに支えられましたことを改めて感謝し、御礼申し上げます。その後も私のためにお祈りいただき心から感謝いたします。

世界中がコロナの問題で混迷している中、大変な状況の中にいる方々もおられることでしょうか。私は、病院のクラスター発生により、入院中の姉が感染し、天に送ったばかりです。その時、コロナ感染で亡くなられた方々のご遺族の悲しみと無念さが、一気にどっと私の心に押し寄せ、涙があふれ、彼らのために祈られました。

主にある者にとっては、主の懷で安らいでいることを信じる事だけが、真の慰めであることを改めて感じ感謝しました。

私自身は、毎朝、多くの時間をみこと

ばと祈りに費やすことのできる恵みを感謝しています。その中で、主は必ずみことばを通して教え励ましてくださり、充実した時を過ごしています。受け入れがたい現実、理解できない状況に慌てふためくことなく、信仰からくる希望により、軽やかな心で主をほめたたえたい。現実にはばかり目を留めることなく主を仰ぎ「私の主、私の神は、私の力」と日々呼びかけ、新たないのちと希望と確信をいただきたいと願っています。

私が所属する西荻チャペルでは4月からズーム礼拝、祈祷会、学生会が続いていますが、ズームならではの祝福も多々いただき、心から感謝しています。いつまで続くかわからないこの状況ですが、主はさらなる恵みを増し加えてくださると信じ期待しています。

ヨーロッパの日本語教会・集会のためにも祈らせていただいています。3年7か月の短いパリでの生活を通して、皆様と出会い繋がるのが出来た恵みを心から感謝いたします。



## フランスを離れて5年半

作田銀也

横須賀市：日本基督教団武山教会



40年余り滞在していたフランスを離れて5年半、妻、安子を天に送って一年が経過しました。一年の記念会をお墓のある神戸で、と思っていたのですが、新型コロナ禍による自粛要請で神戸行きを断念し、自宅で親族や友人から送られてきた沢山のお花と写真を飾って一人で記念会をしました。

聖書を読み、彼女の好きだった讃美歌、聖歌を何曲か賛美しました。彼女が入居していた特養も外部者の入館をストップして、毎朝の礼拝のお手伝い（と言っても、後ろから大きな声で讃美歌を歌っているだけです）も出来ていません。



聖日礼拝を守っている教会は幸か不幸か80人ほど入れる会堂に20人ちょっとの出席者なので、礼拝は教会で行われています。オルガニストの婦人から「小さな教会ですが、これからも賛美で助けてくださいね」と言っていたので、高齢者の多い（と言っても、私自身が二番目の高齢者）大声で賛美し、礼拝後は牧師夫妻と時折食事を共にし、これからの教会のことや礼拝説教の内容についても突っ込んだ話し合いをしています。

そんなわけで普段は海釣りを楽しみながら、三浦半島の住人を続けている昨今です。



横須賀の海



清水 摂

ジャパニーズ・クリスチャン・フェローシップ・  
ネットワーク U.S.A.

長い間多くの方々の祈りに支えられ、一年近くの準備をしてきたJCFNとして初めてオンラインで開催したEC20 Beyondカンファレンスが大きな主の祝福の内に終わることができてからすでに1ヶ月が経ちました。

ECは、Equipper Conferenceの略で、目的は、海外でキリストに出会った日本人クリスチャンたちが、キリストによって遣わされる者として、日本に帰国する前に、彼らをequipする（備える、整える：エペソ4:12）ことを目的としたカンファレンスです。1997年から開催され、今回で17回目になりました。普段は、12月27日からお正月の1月1日まで、南カリフォルニアにある非常に美しい温泉付きのクリスチャンリトリートセンターで開催しています。神様の御言葉を聞き、兄弟姉妹との交わり、賛美と祈りを捧げるために350名近くの方々が北米各地、また、日本から集われています。

始まった当初は、アメリカに留学している日本人大学生で、英語で福音に触れ、クリスチャンになった人たちが主な対象でしたが、今では、一般プログラム以外に、求道者のためのシーカーズプログラム、中高生のためのユースプログラム、小学生以下のキッズ・プログラム、RJC (Reaching Japanese for Christ)プログラムと広がりが出てきています。(RJCは、日本人・日本語宣教に携わっている方々、重荷のある方で日本語を母国語としない方々のためのプログラムです。)しかし、全ては、帰国者を整えるという一つの目的でつながっています。

EC実行委員は、EC参加者から募るボランティアリーダーです。JCFNとの関わりの中でリーダーシップを発揮している20~30代のリーダーに声をかけますが、大会の規模や内容から各ディレクターの責任は大きく、多くの時間と労力を費やすものになります。しかし、彼らが喜んでこのチャレンジを受け、奉仕してくださるのは、彼ら自身がECに参加し、神様を直接体験しているからだと思えます。そして、今

度はそれをホストする側として奉仕をする喜びに与るのです。

パンデミック前からの準備でしたので、今回、オンラインに踏み出す決意をするのに実行委員会として丸ヶ月共に祈り、聖書を読み、御心を求めました。そのプロセスを通して全員一致でオンライン開催に主が導いてくださっていると確信できたことは大きな感謝です。今回のテーマは「Listen...~そうすれば生きる」だったのですが、まさにそのことを実体験できたのです。その結果、オンラインだったから参加できた...という方々の声は非常に多く、すべてをご存知の主が、EC20 Beyondを導いてくださったのだと、ただただ主の御名を賛美しています。

EC20 Beyondの全体集会、ワークショップはYOUTUBEで観れるようになっていきます。ぜひ、継続してこの恵みを受け、そして周りにシェアしてください。

次は、5月2-4日に、既に帰国をされた方々のための、GRC (Global Returnees Conference) がオンラインで開催されます。<http://globalreturnees.org/>ぜひ、このためにもお祈りくださり、ご参加ください！そして、すべての栄光を主に返しします！

ECホームページ：[www.equipper.org](http://www.equipper.org)

JCFNホームページ：[www.jcfn.org](http://www.jcfn.org)

ECYoutubeチャンネル：<https://www.youtube.com/user/equipperconference>



### プログラムについて一言...

西海岸時間を中心にプログラムは始まりましたが、27日午後3時から30日午後7時まで、24時間体制で各時間帯のプログラムを行いました。たくさんのプログラムに参加したかったため、4日間、睡眠不足になった人たちもいたと伺っています。

### 参加者からの声

- 集会場ではなく、日常の中での集会は、ある意味リアルで、家事や育児、当たり前の中で主の御言葉を聞く作業をすることは、明日からの生活に繋がるものにもなると感じました。
- 聞くことは、まず「聞く耳のない私をお赦してください」と悔い改めるところから始まるという言葉が響きました。聞きたいことだけを聞いている自分に気づかされました。
- 神様が私を愛しておられ素晴らしい計画を持っておられることを本当に心から理解した。神様に聞くことは、少し恐れというものがあった。自分の思いと違かったときの自分の反応、それに従えるかどうか、でも、それでいいんだ、悲しんでいいんだと受け止められた。日々神様に聞き、神様と話し合い作戦会議をしながら信仰生活を歩んでいきたい。



## Yutika 2021

ユティカ2021の感想をまとめました。とっても励まされます。ぜひ読んでみてください！

渡邊 航（デュッセルドルフ在住）

主の御名をこころより賛美いたします。

私は今回で3回目のユティカでした。今回はライフストーリーという証しを中心のプログラムで、それぞれが主と向き合って歩いていこうと強く決心できるような内容だったと思います。新しい年の初めにぴったりのテーマだったと思います！

毎年参加人数が増えていくユティカは本当に神様に祝福されているなと強く感じます。ユティカにたくさんの若いクリスチャンが集うことで言葉で言い表すことができない主にあるパワーとエネルギーを感じました。信仰の歩みの中でそれぞれ違うステージにいるひとたちが集まり、年齢もバラバラ。それでも主にあることで一体感があって聖霊を通してみんなが語られることに感動しました。主に感謝！来年も必ず参加します！

當間 拓矢（神奈川県在住）

ユティカへの参加は2021が初めてでしたが感謝な時間でした。準備委員の皆さんの雰囲気良くて楽しく参加できました！苦労もあったかと思いますが、本当にありがとうございます。ライフストーリーというテーマをゆっくり考える貴重な時間が与えられ、祈りと御言葉によって主と共に歩む一年にしたいと強く思われました。

今度は顔を合わせて参加できることを願っています！

藤原 誠（ミュンヘン在住）

今年のユティカはコロナの影響で全プログラムをオンラインで行うことになった。しかし、神様にとってはそんなことは関係なく、むしろ散り散りになって集まることができない自分の羊たちを励ましたくて仕方がなくて「待ってました！」といわんばかりに一人一人に豊かに語ってくださった。

自分は今回準備の最初から関わらせてもらったが、準備メンバーのチームワークと信頼関係は本当に素晴らしく、ミスがあっても責め合わず互いにカバーし合い、いつも楽しく、でも真剣に祈り求めつつオーガナイズすることができた。

準備期間含め、終わってしまうのが名残惜しいと思うほど楽しく嬉しい主にある時間だったし、一人一人の賜物が存分に生かされたユティカだった。サポーターではなく完全に準備メンバーの一員として受け入れてくれたスイスJEGのみんなに感謝。背後のお祈りに感謝。この場所から遣わされ、また来年、この場所にみんなまで帰って来たい(エレミヤ 29:14)。

須田 帆菜（東京都在住）

夜だったこともあり、WiFiが弱くて途中で切れちゃった事もありちょっとしか参加出来なかったけど、とても良い時間を過ごすことができ感謝です。

去年は教会に行かないでオンラインの礼拝がずっと続き、一緒に祈るとか、シェアする事がほとんどなかったこともあって、自分がなんで神様を信じるようになったかとかを分かちあうのも一年振りくらいで。今までずっと教会にいて少ししかこの交わりが好きじゃなかったのが、今回のユティカに出て「あっ、共有することで信仰って初めて自分でも再確認出来るんだな」って思いました。ユティカにはバラバラな状況の人たちが集まってくる事もこの集いをよりキラキラさせてると思います。

また来年は現地で開催される事を祈ってます！

Sibylle Wotzkow（日本在住）

Dear brothers and sisters in Christ

I would like to thank you very much for this great time and all the information, testimonies and loving people I got to know.

I was overwhelmed that there are so many Christian Japanese in Europe and even in Switzerland! I also learned a lot from the teachings regarding evangelism and relationships/marriage.

ピーケンブロック 恩恵（ベルリン在住）

「信じる。それは信じる【主体】と【対象】の関係」。「何かを信じるとは何か?」。これをベースに分科会「信じるって何?」は始まりました。リードして下さったたくみ先生を含む10人で内容は進み、様々な質問や考えが出ました。下記はその一部です。

・対象から影響を受ける事はあるか。自分が対象に影響を及ぼす事はあるか。信じる事によって期待や得たいものはあるか。何を得ているか。

・言語化出来なくても何かは信じている。人間には生まれた時から信じる力が備わっている。

そして、この流れで「神を信じるとは何か?」に辿り着きました。時間切れになったので深くは進めませんでしたが、1つ印象的な点が残りました。神を信じる → 賛美する → 神は喜ぶ → 対象に影響を及ぼす

分科会のテーマを読んだ時のイメージとは違う内容でしたがとても興味深く、普段は意識していないかもしれない事について考えるのが楽しかったです。

門脇 麻里子 (埼玉県在住)

井ノ上 歌歩 (バーゼル在住)

今回私は初めて参加しました。国際色豊かでアットホームな雰囲気、初参加であったにも関わらず暖かく受け入れてくださり、とても嬉しかったです。分科会と聖書研究だけ参加させていただきましたが、学び多い良い時となりました。

伝道についての分科会では、伝道と宣教についての実践的なことを学ぶことができました。是非私も取り入れてみたいと思います。また聖書研究では「なぜパウロは自分の命を惜しいと思わない程に神の計画を余すことなく人々に伝えることができたのか」ということをメンバーで話し合い、神様は人の思いを知ってくださり望むならその思いを変えてくださる、という結論になり、そのことは私にとって大きな励みになりました。また友人と一緒に参加することができたことも嬉しかったです。ユティカのために働いてくださった方々に心から感謝いたします。

トムセン・カレン (チューリッヒ在住)

今年のユティカは初めての準備段階からすでにどのような形で行われるかが分かりませんでした。コロナで全てオンラインにすべきかどうかギリギリまでははっきりしなかったので、準備が間に合うのが心配でした。

招待状を送るのが遅れたり、情報がはっきりと行き渡っていなかったりしていましたが、50人以上のティーンやユースが最終的に申し込んでくれました。トラブルや間違いがプログラム中に何度かありましたが、準備委員がお互いのフォローをしたり、参加者が優しく待ってくださったことで大きくならず乗り越えられました。

これも神様が全て上手くいくように人材や技術を用意してくださったお陰だと感じました。不安や心配してもただ気持ち重くなるだけなので、神様にその気持ちも全て委ねれば良いのだと今回の経験によってはっきり示されました。

トムセン・ヨハナ (チューリッヒ在住)

ユティカ2021『ライフストーリー』が行われた事を神様に感謝します！今年はコロナの影響で初めてユティカをオンラインにする事になりました。

私は準備員の一人として、色々その中で神様から学ばせていただきました。今回私にとって一番の学びは、人生の中で思い通りにいかない時こそ、神様に近づき、成長できる事でした。その事をキックオフで聞いた同じ日に実現されました。私が担当であったゲームの時間が予定どおり行かなかったため、落ち込みました。ですが、その事を通して、改めて自分のプライドや、人の目を気にする罪が明らかになりました。

他に感謝な事は、初めての方達も参加して下さった事です。その方達ともプログラム以外の時間で信仰の事について何時間も話せた事です。

ユティカ2021の二日間、全てを神様に栄光を帰します。

英訳付きでオンラインでもお読みいただけます。<https://expcf.padletcdn.com/>

なぜユティカという名前なのかもわからないうちから準備メンバーに入れてもらい、かなり急ピッチでしたが楽しく準備をしてきました。

準備の段階からユティカ当日まで、お互いを尊重し合う温かい雰囲気がいつもあり、その空気がオンライン越しでも伝わってくるのが本当に不思議でした。ありのままの自分についていいんだ、と思える、安心してくつろげる場所でした。ユティカに関わっている期間が、準備メンバー、そして参加者の一人一人が神様の温かい愛の中にあるんだなあ、と感じ続けた時間でした。

今回のユティカのテーマだった、ライフストーリー。まさに今わたしは、自分のライフストーリーがこれからどうなっていくのだろうと常に考え、時に不安になりながら、祈っています。

神様は将来にもおられるので、もうわたしのライフストーリーはすべて知っておられます。もう早く遠くの景色まで見せてほしい！と思うこともあります。この、先が見えない旅路を、神様とともに歩むことの喜び、ワクワク感、そして安心感があるのだな、と再確認した時間でした。

神様のなさることは、時にかなって美しいです。この世界のすべてを造られた神様が、今日も明日も、永遠にいたるまで共にいてくださることに信頼しつつ、この一年も歩ませていただきたいです。

川端 賢一

1年の最初の日から内容の濃い会に参加できて本当に良かったです。私はキリスト教徒ではありませんが最近のコロナの事情やいろんなことを考えるとやっぱり人間は1人で生きていけないんだと思います。

皆さんとお話したようにやっぱり人間は1つ信じるものがあるこそ豊かな人生を送れると思います。生命の息吹になるようなものは自然の中でいくらでも溢れていると思いますしそれを見ようとする心が大事だと思います。

神様の存在は実際に目に見える、心に見える形で感じることが大事だと思います。そして世の中はすべての秩序の上に成り立っていてそこで豊かに暮らせるということに感謝しないといけないと思いました。

私は今後キリスト教徒になるかどうかもしくははなれるかどうかもしくは、お呼びがあるかどうかわかりません。まだ私はキリスト教と言う団体に疑問を抱いている立場なので1つの団体と言う概念が取り払われた時、また私は心を自由にしたいです。

とにかく今は試練の時ですが世界中でどうなるか分かりませんが皆さんそれぞれの道を頑張って生きていただきたいです。また機会があれば参加したいです。ありがとうございます。

